



隣にいる人が、 いちばんの「ヒーロー」になる

～能登半島地震から学ぶ、
新宮町を守る「共助」のちから～

8割のいのちを救うのは、あなたと隣人

大規模災害の過去の調査では、倒壊した家から救出された人の約80%が家族や近隣住民から助け出されています。消防や警察などの「公助」による救助は、全体のごくわずかです。「自分たちが自分たちの地域を守る」という心構えが町をさらに強くします。

体験型ゲームで地域を攻略せよ

「自分たちの地域を守る」ために、まずは地域を知ること、また、いざ有事の際にどのような行動をすべきかを知っておくことも重要です。

DIG※ (災害図上) 訓練



※ Disaster (災害)・Imagination (想像力)・Game (ゲーム) の略

地域みなさんで巨大な地図を囲み、「この道が冠水したら?」「ここにお年寄りが住んでいたよね」などを話し合います。自分たちの住んでいる地域の弱点や強みがみえてくる、リアル攻略ゲームです。



▲詳細はこちら

HUG※ (災害図上) 訓練



※ Hinanjo (避難所)・Unei (運営)・Game (ゲーム) の略

次々にやってくる避難者を、避難所のどこに配置をするか? 状況判断とチームワークでパズルを完成させる、マネジメントシミュレーションです。



▲詳細はこちら

ゼロアワーになる前に避難を

ゼロアワーとは、災害が深刻化し、警戒レベル5など屋外活動が不可能になる「物理的な限界点」のことです。警戒レベル5に達すると、消防署が助けに行けない時間帯が発生します。「消防署がいつくるか」ではなく、「いつ動けなくなるか」を家族や地域で話し合しましょう。それが「逃げ遅れゼロ」への第一歩です。

今日からできる「あいさつ」という名の防災

地域の中で、特別な道具を使わず、訓練をゲームのように楽しみ、顔がみえる関係を作ることが、防災への最大の装備となります。消防署では町と協力して、行政区や小規模集会などでの防災講座の中で、DIG訓練などのゲーム型訓練を実施する予定です。

みなさんもぜひ参加して、楽しみながら「共助」のバトンを磨いてみませんか。